

# 令和3年度 事業報告

事業所名	法人本部
展望	伊賀帛会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	①法人事業を担う本部機能の強化②事業別独立採算制度の確立③BCPの作成④職員の福利厚生の実施⑤ウイルス感染予防対策の徹底⑥システム化の導入
重点目標	<p>1.法人事業を担う本部機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全体の指示、チェック及び情報共有はできており、職員の育成、新規採用を取組み適正な職員配置を行っている。</li></ul> <p>2.事業別独立採算制度の確立</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・内部監査と予算管理会議を2カ月に1度実施しているので補正等、迅速な対応が行えている。</li></ul> <p>3.BCPの作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・BCPについては通所事業所は作成済。入所事業所については更新中。</li><li>・自家発電機を各事業所に完備済。</li><li>・感染症BCPについては各事業所とも作成済(更新中)。</li></ul> <p>4.職員の福利厚生の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・職員のスキル向上の為、資格習得の支援を行っています。</li><li>・年次有給休暇については、積極的に取得を促し、職員全員が有給休暇を取得しています。</li></ul> <p>5.ウイルス感染予防対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・職員の健康管理の徹底及び手洗いの促しを行いました。</li><li>・各事業所及び全グループホームへ非接触型体温計を設置し、PCR抗体検査キットを常備しました。</li><li>・各事業所の食堂及び事務所にパテーションを設置しました。</li></ul> <p>6.システム化の導入</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・太陽作業所とプレイヤード作業所にセキュリティ機器を導入しました。</li><li>・会議についてはZOOMを取り入れ、オンラインにて会議を行っています。</li><li>・給与ソフト等のソフトウェアをクラウド化にしました。</li><li>・パソコンの入替を行っています。</li></ul>

# 令和3年度 事業報告

事業所名	太陽作業所
就労継続支援B型	<p>『1.人数目標・・・平均利用者数28名を目指す(軽作業20名・厨房8名)』</p> <p>⇒26.5名という結果であった。 入院やコロナウイルス感染症による施設閉所が大きく影響した。</p> <p>『2.利用者支援・・・「一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。内部作業だけでなく、外部作業も継続して行い、作業の種類、工賃の向上を行う。社会参加プログラムが何を行っているかを明確にする。利用者が飽きてしまうこともあり、余暇から学習へ、利用者が学びたいものをリサーチし、参加者を増員する。厨房では、外部のイベントや試食会などにも参加し、食についての興味をさらに高め、調理スキルの向上を目指し、やりがいをもって頂けるように支援を行う。』</p> <p>⇒11月から木工作業を取り入れた事で利用者が自主性を持って作業に取り組む事ができるようになった。 また、スポーツ大会も数回取り入れて作業だけでなく余暇活動も充実させることができた。 厨房では利用者と外食の機会を設け接遇、マナーを学び楽しみをもってプログラムに参加していただけた。</p> <p>『6.環境整備・・・朝の15分間の清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。フライヤー油は6回使用後、職員が確認して顕著な汚れがあれば交換する。掃除や処理の時間の確保を行う。厨房事業のお弁当作りについては、水曜日、最終月曜日を休みとする。食中毒など衛生面の強化、賞味期限切れの商品の梱卸の強化を行う。』</p> <p>⇒施設内でコロナ感染者が出た事で、より一層消毒を徹底した、厨房については、より一層衛生面の強化を図り、衛生に関するミーティングを適宜開催した。</p>
生活介護	<p>『1.人数目標・・・平均利用者数17名を目指す』</p> <p>⇒20.5名という結果であった。</p> <p>『2.利用者支援・・・一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。選択できるプログラム作りを行い個性を生かしていく。また、作業能力、意欲がある方については、本人の希望を確認し就労継続支援B型への移行を促していく。支援方法など、日々の情報共有を行い一緒に考え支援を統一化していく。』</p> <p>⇒一人ひとりの障がい特性を把握し柔軟に対応できた。対応結果については朝礼や終礼にて共有した。 また、一年を通して選択制のプログラムを提供することができた。 B型への移行も積極的に進め、正式な移行に結びつけることができた。 令和2年4月に開所した新ひらそるも利用者のニーズを組み取りながら、順調に運営することができた。</p> <p>『6.環境整備「朝の15分間の清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。フライヤー油は6回使用後、職員が確認して顕著な汚れがあれば交換する。掃除や処理の時間の確保を行う。厨房事業のお弁当作りについては、水曜日、最終月曜日を休みとする。食中毒など衛生面の強化、賞味期限切れの商品の梱卸の強化を行う。』</p> <p>⇒終礼前に職員と利用者が共同で掃除を行った。 また、作業所内の消毒を徹底した。</p>
共通事項	<p>『3.防災訓練「地震対策の訓練、棚など地震対策の強化。年2回の防災訓練を開催する。そのうち1回はBCPに沿った訓練を実施する。防災グッズの確認と持ち出しも行う。調理時の火災に備えた対策を実施する。』</p> <p>⇒年2回の防災訓練を実施した。防災グッズの確認を行った。 BCPに沿った訓練は十分にできたとは言えない。</p> <p>『4.職員育成・・・全体・個別研修計画に沿った研修に参加し、研修内容を終礼で発表する機会を設け、一人ひとりの支援スキルアップに繋げる。終礼の中で定期的に学習会(発達障害や自閉スペクトラム症など)を行い、今以上に根拠を持った支援ができるようにする。厨房は、ローテーションで回す体制を継続する。また、在庫チェックを行い、食材の適正管理を行う。管理者・サービス管理責任者は必要に応じて定期的に厨房に入り、指導を行う。』</p> <p>⇒オンラインにて研修会に参加した。研修の成果を業務に十分に活かせてはいない。 次年度はより効果的で有意性の高い研修を実施していきたい。</p> <p>『特定相談事業所や相談支援センター・医療関係・ヘルパー事業所・学校の先生・キーパーソンの方・行政機関と協力し合い、社会資源を活用する。法人内で話し合いを密にし、それぞれの事業所の支援を共有する。作業所からグループホームへの発信の強化。共有フォルダーと電話を駆使した連携をとる。』</p> <p>⇒外部機関と協力しながら事業を進めることができた。法人内外と連携を密にし、しっかりと連携を図ることができた。</p>

## 令和3年度 事業報告

事業所名	プレイヤード作業所(就労継続支援B型)
重点目標	<p>1. 人数目標 … 平均利用者数45名を目指す。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒人数については目標に対して43.9名と達成できなかった。</u> <u>コロナウイルス発生による施設閉所や濃厚接触者の自宅待機が大きく影響した。</u></p> <p>2. 支援目標 … 簡単な軽作業から高度な施設外就労まで本人の能力と希望に合った色々な作業を選べるようにする。その中で本人の目標が達成できるように就労に必要なスキルやコミュニケーションを学べる機会を提供する。能力が高まった者は、A型や一般就労へステップアップして頂けるよう支援する。皆が通いたいという事業所にするために、利用者の特性に応じた環境調整や高単価作業の営業・安定した内職獲得の営業・様々な作業を経験してもらえるよう外勤先の獲得と作業量の調整を行い、平均工賃の底上げをし、利用者には選ばれる事業所となる。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒外勤から内職まで、利用者の障がい特性や作業スキルに応じた多様なサービスを提供することができた。</u> <u>外勤に行かれていた方(2名・別企業)を、その外勤先で直接雇用に結びつけることができた。</u></p> <p>3. 工賃目標 … 毎日終日作業された方で月に2,000円～80,000円の作業を提供する。 平均工賃月1万7千円を目指す。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒工賃目標は達成できた。</u></p>
重点目標 共通項目	<p>1. 防災訓練 … 年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。外勤の企業先での避難訓練に参加させて頂いたり、その場での避難訓練をさせて頂くよう企業との連携に努める。緊急時に素早く地域で指定された避難場所に避難できるよう訓練する。AEDの利用方法や防災グッズの中身の確認を行う。また、南海トラフ大震災を意識し、地震対策訓練も実施する。事業継続計画(BCP)を活用した訓練を職員中心に行っていく。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒年2回の防災訓練は実施した。反省点としては、新しいAEDを用いた訓練ができなかった。</u></p> <p>2. 職員育成 … 年間研修計画を作成し、滞りなく行われることで職員全体・個々のスキルアップを行う。日頃からの職員同士のコミュニケーションを大切に、チーム支援を実施していく。また、事業所内での教育を実施し知識やビジネスマナーを深め支援に活かしていく。虐待防止に対する意識を深めるための教育・研修を実施し、職員同士が常に注意しあう。職員が悩みやストレスを相談しやすく、楽しいと思えるような環境作りを行い、一人一人が自己実現できる職場づくりを行う。報告連絡相談確認の徹底、情報共有の強化、チームで解決していく事を心がける。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒研修計画については年間研修計画に基づき実施した。</u> <u>個別研修についてはオンラインでの研修に積極的に参加できた。</u> <u>人間関係でストレスを感じる職員もいたが、上司・同僚に相談することで解決できた。</u></p> <p>3. 連携強化 … 各種関係機関との連携を密に行い、本人にとって適切なサービスを提供する。法人内の連携を密にして、法人全体がチームとして支援できる体制づくりに努める。昇会祭を開催し、利用者の満足度アップと地域との交流・啓発の機会を図る。就労部会や三重県精神障がい者福祉事業所連絡協議会などにも参加し、外部とのネットワークを強化し視野を広げた協力体制をつくる。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒昇会祭についてはコロナの影響もあり実施できなかった。他の項目については実施できていた。</u></p> <p>4. 環境整備 … 誰もがここに来たいと思えるような事業所になるように景観・掃除の徹底を行っていく。また、危険物がないかどうか、備品や設備の定期点検を年2回開催し、記録する。ヒヤリハットも活用し、具体的に解決を図っていく。</p> <p style="margin-left: 20px;"><u>⇒掃除の徹底、備品や設備の定期点検は適切に実施した。</u> <u>ヒヤリハットについては、うまく活用できなかった。</u></p>

# 令和3年度 事業報告

事業所名	<h2>グループホーム昴会</h2>
グループホーム	<p>1.人数目標・・・平均利用者数75名を目指す。          ・月平均71.82名という結果であった。          コロナ禍で営業活動が思うように出来なかったのも要因です。</p>
	<p>2.利用者支援 …… 利用者主体での支援を徹底し、自己決定、自己選択、ニーズの把握、本人の強みを生かし、個々にあった支援を行う。また居心地がよいと思える支援を目指し、朝礼・終礼・グループホーム毎の支援検討会議・個別支援会議・グループホーム全体会議などで情報共有を行い統一した支援を行う。          本年度も夜間服薬管理の周回を継続して行い、眠剤の服薬忘れを防止し、安否確認も行う。          ・最も重要な取り組みは、虐待防止に関することでした。その中で情報共有が充分でなかったため、全体会議の実施や小会議での情報共有、申し送りノートの活用、会議議事録の回覧など行いました。          利用者のニーズを共有することで、統一した支援ができるように今後も取り組んでいきます。</p>
	<p>3.防災訓練 …… 年2回の防災訓練を行う。そのうちの1回は、防災リュックの中身及び使用方法の確認もあわせて行い、わからないことや困りごとを話し合う機会とする。          災害時、自分たちで各地域の避難場所へ移動できるよう緊急事態を想定した訓練を行う。          又、災害時のBCP及び感染症対策を盛り込んだBCPの作成を早期に行う。          ・年2回行いました。今年度は、避難場所の周知や防災グッズの中身の統一を行い、利用者さんが運びやすいようにコンパクトなリュックに統一しました。ただ、防災グッズの中身等もバラバラで、体の小さな方に大きなリュックがあてがわれている等の課題もありますので、実際使うことを想定して避難リュックの確認も行っていきます。</p>
	<p>4.職員育成 …… 年間研修計画に基づいて、Zoom研修を含め、参加を積極的に行う。          虐待防止の取り組みを通して学んだことはグループホーム毎の会議や新人研修で研修を行い、虐待に気付く、虐待防止できる体制をつくる。          更に研修プロジェクトチームを再編成し、PDCAが回せるような研修計画を立案し実施する。          個別支援計画の作成時は、現場の世話人さんも個別支援会議に参加してもらい、個別支援計画の内容の充実を図る。          ・各グループホームごとの会議を必要時に開催し、世話人との情報共有に努めました。          又、虐待防止研修や県社協の階層別研修については、ZOOMを活用しながら参加しました。</p>
	<p>5.連携強化 …… 法人内外の事業所間連携を図る。特定相談支援事業所を中心に、地域包括支援センター・ヘルパー事業所・病院・学校・市役所・地域・関係機関等と協力し合い、社会資源を活用したチームアプローチを行う。          ・困難事例が起こってからの連携ではなく、日々の連携に努めました。</p>
	<p>6.環境整備 …… 市役所、病院、スーパー、コンビニエンスストア等がある利便性の高い場所に住みたいという要望がある為、利便性の向上にむけた改善策を考えていく。          ・法人本部と連携し、西明寺地区にグループホーム建設用の土地を購入しました。</p>

## 7.グループホームごとの目標

### ◎グループホームひだまり・グループホームたいよう・

グループホームたんぽぽ …… 個々人に応じた生活しやすい  
環境を整え支援を行っていく。

- ・個々人に応じた支援ができました。

### ◎グループホームたいよう2 …… 個々人に応じた生活環境を整え支援を行っていく。

- ・個々人に応じた支援ができました。

### ◎ふるさと荘、久米、千歳、桜ヶ丘荘、ほほえみ、すまいる、かがやき、

すてっぷ、なごみ、丸之内 …… 少人数での共同生活を通じて、社会性を  
育めるような環境作りを行う。

- ・生活リズムを整え、健康維持を図り、毎日通所できる支援ができました。  
又、小会議を重ねて支援の統一化を図りました。

### ◎ブルー、スカイ、ほぶら、けやき……アパートでの生活(二人暮らし)を通じて、自立に向けた支援を していく。

- ・自立に向けた生活をできるよう支援できましたが、服薬支援などの課題もあり、今後、検討しま  
す。

### ◎サテライト型住居わかば …… 一人暮らしが出来るように支援していく。

- ・自立に向けた生活をできるよう支援できました。

### ◎施設整備……入所者の高齢化に伴う重度化に少しでも対応できる様な施設を建築していきます。

- ・引き続き、法人全体での取り組みを検討中です。

令和3年度 事業報告

事業所名	相談支援事業所すばる
展望	伊賀帛会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	障がいのある方が福祉サービス等を利用して、 地域で“自分らしく”暮らせるよう支援する。
重点目標	<p>1. 人数目標 …… 2020年度中に120名(実績)の契約を行う。 → 119名の方と契約させて頂きました。目標には届きませんでした。</p> <p>2. 利用者支援 …… 利用者さんの希望するニーズを中心に考える。 地域生活を過ごす上で利用者さんやご家族が何に困っているのかを理解し福祉サービスに繋げる。 相談しやすい環境・関係を築く。 → 利用者さんの気持ちに寄り添い、モニタリングすることを心がけました。 利用者さんに理解していただける言葉選びを工夫しました。</p> <p>3. 職員育成 …… 伊賀帛会の研修計画に沿った研修、及び外部の研修にも積極的に参加し、相談スキルを上げる。 福祉だけでなく介護分野や教育分野の支援やサービスを知る。また、3障害の他難病や加齢による疾病等も知り、支援やサービスに活かす。 事例検討会に参加し、他職種と一緒に支援を考え、連携していく。 → 伊賀帛会の研修ならびに外部研修(オンライン)に参加し、スキル向上に努めました。 事例検討会に参加することで、他職種連携の視点をより強く持つことができました。</p> <p>4. 連携強化 …… 伊賀帛会の全事業所、他法人の事業所、各市町障がい福祉課・障がい者相談支援センター、地域生活定着支援センター、医療機関、ご家族、学校、地域の方等、あらゆる関係機関と密に連絡を取り、信頼関係を築く。 → 関係機関との連絡を密にし、連携を図ることができました。</p> <p>5. 環境整備 …… 公用車内の清掃、洗車を行う。 個人情報の管理を徹底する。 感染症BCPを作成する。 → 公用車の清掃、個人情報の管理は徹底いたしました。 感染症BCPを作成し、バージョンアップをおこないました。</p>